

マルハニチロで発生しているフードロス

“まだ食べられるにもかかわらず、販売できなくなった商品”
が廃棄されて、フードロスとなっています



角の箱潰れのため廃棄



胴潰れのため廃棄



表面破れのため廃棄

- ・ 輸送時の外装破損品（商品自体に問題がない破損）
- ・ 輸入時の抜き取り検査による箱開封品（端数品）
- ・ 終売品、滞留在庫（納品期限切れ）

など

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

①

マルハニチロで発生しているフードロス

発生しているフードロスの約9割が冷凍食品



原因

海外の工場生産した冷凍食品は輸入に際し、
コンテナ輸送時の外装破損・抜き取り検査残が多く発生

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

②

フードロスの現状と課題

マルハニチロでのフードロスの発生状況と課題

- ・商品の中身に問題がないような軽微な外装破損でも、物流会社（倉庫や配送業者）から受取拒否
- ・1ケース2合わせなどの規格の商品では、バンドの食込みによる破損も多いが、片方の箱が破損すると、もう片方が問題ないとしても、単箱では規格外品のため流通不可
- ・輸入の際の抜き取り検査による箱開封品（端数品）は、品質は問題ないが規格外品となるため流通不可



軽微な外装破損



バンド食込みによる破損



抜き取り検査による箱開封品

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

③

フードロスの現状と課題

物流会社や小売店など受入側の現状と課題

- ・物流会社（倉庫や配送業者）は、問屋や店舗で受取拒否されると弁償の必要があるため、軽微な外装破損でも入庫時に弾かれることが多い
- ・倉庫は入出庫作業が主のため、外装破損品の商品状態確認等は人員確保が難しく、外装破損品の最終判断はメーカー側の確認が必要
- ・小売店では、1ケース2合わせが規格の商品は単箱（規格外）での受入れはできない



Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

④

フードバンク活動が活発化している背景

新型コロナウイルスや物価高騰の影響により 食品支援のニーズが高まっている

日本でも生活困窮家庭が増加

- ・子どもの7人に1人が貧困状態 (厚生労働省「2019年 国民生活基礎調査」より)
- ・2021年の生活保護申請件数は前年より5.1%増加 (厚生労働省の統計より)

新型コロナウイルスの
影響による収入減

社会情勢不安や
円安による物価の高騰

食品支援のニーズが高まっている

- ・フードバンクかながわ様では食品取扱量がコロナ前から倍増 (フードバンクかながわ様 HPより)
- ・セカンドハーベスト・ジャパン様ではコロナ以前は一日平均70~80人だった利用者が150~200人 (ピーク時は300人) と約2.5倍に (セカンドハーベスト・ジャパン様 HPより)
- ・当社も子ども食堂やフードパントリーを営む団体からの食品支援の問い合わせが増加

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

⑤

フードバンクとの取組み状況

●マルハニチロにおけるフードバンクとの取組み

2009年：セカンドハーベスト・ジャパン様へ食品寄付を開始

2019年：子ども食堂やフードパントリーを行う団体に食品寄付を開始

2022年：中部支社においてセカンドハーベスト名古屋様への食品寄付を開始
フードバンクかながわ様への食品寄付を開始

2022年度寄付実績（2月現在）：約48,000個※冷凍食品主体、一部缶詰・ゼリー含む



企業から小さな活動団体への個別配送は課題もあり、フードバンクへの集約が効率的

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

⑥

冷凍食品寄付の物流面での課題

マルハニチロのフードロスの約9割が冷凍食品

- ・ 少量をクール宅急便配送すると、コストと手間がかかる
- ・ 温度変化があると冷凍食品の品質を担保できない
⇒保管倉庫から一度に多くの商品を冷凍配送でき、
寄付先のフードバンク等でも温度担保可能な冷凍保管設備が必要

冷凍食品の寄付には一貫したコールドチェーンが必要



Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

⑦

フードバンクかながわ様との取組み 物流会社との連携事例

2022年度からフードバンクかながわ様へ食品の寄付を開始

- ・ フードバンクかながわ様では保冷車、冷凍倉庫設備があり、2022年4月から本格的な冷凍食品の導入を開始
- ・ マルハニチロの冷凍食品の保管倉庫は神奈川県川崎地区に集中
- ・ マルハニチロ、物流会社（倉庫）、フードバンクかながわ様との連携により保管倉庫からの定期的な冷凍食品引取・寄付のスキームを構築中
- ・ まずは品質を担保できる輸入時の抜き取り検査残の端数品から実施し、外装破損品にも拡大予定



2023年度より、
フードバンクかながわ様との
定期的な食品引取・寄付を
本格的に開始予定

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

⑧

フードバンクかながわ様との取組み 物流会社との連携事例

<12月に実施したテスト配送の様子>



物流会社倉庫に保管されている当社冷凍食品



輸入検査で抜き取られた箱開封品の状態確認（製品品質は良品と同じ）



フードバンクかながわ様の保冷車で引取



株式会社ヒューテック
ノオリン様

フードバンク
かながわ様

マルハニチロ

テスト配送では、弊社商品を保管いただいている株式会社ヒューテックノオリン様にご協力いただきました。
今後その他の物流会社とも実施予定です。

企業の枠を超えて社会課題解決に向けて協力しています

フードバンクとの取組みに関わる課題

● 寄付商品（冷凍食品）に関して

- ・ 数量や商品に応じたフードバンクとのマッチング
フードバンクや提供先での冷凍庫等の設備が必要
業務用冷凍食品は量が多く家庭には不向きだが、子ども食堂等では活用可能
- ・ プライベートブランド（PB）品の寄付はPBオーナー様との協業が必要
- ・ 業界で統一した外装破損品の判断基準

● 配送に関して

- ・ 冷凍食品はクール便配送のため寄付量が多くなると配送コストも増加
- ・ 保管拠点（倉庫、工場）に応じた各地のフードバンクとの連携

● 理解促進に関して

- ・ 社内および社外の物流会社等のフードロス削減に対する理解と協力が必要

行政による支援や、企業同士の連携・協力が
フードバンク活動における課題解決の糸口だと考えます
一丸となって取り組んでいきましょう